

モニタリング結果報告書

施設 金沢若草園

指定管理者 社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会

施設所管課 障害サービス課

(平成22年度 上半期)

管理運営状況総括

1 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	備考(確認事項等)
4月	5月10日	月報を確認、改善すべき業務はなし
5月	6月10日	月報を確認、改善すべき業務はなし
6月	7月10日	月報を確認、改善すべき業務はなし
7月	8月10日	月報を確認、改善すべき業務はなし
8月	9月10日	月報を確認、改善すべき業務はなし
9月	10月9日	月報を確認、改善すべき業務はなし

2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

(1) 提案内容の達成度

A: 提案を上回る B: 提案どおり C: 提案を下回る

(2) 実施状況等

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績を記載する。

<提案内容の概要>

施設に入所する障害者を地域生活に移行するため、居住の場であるグループホーム等への移行を進めるとともに、日中活動の場としての同園通所施設の利用促進や、家族のレスパイトや、緊急時等の短期的な入所サービスを提供する短期入所事業を提案した。

- ① 施設入所者の地域生活への移行に向け、利用者及び家族の納得できるグループホーム等への移行を進める。
- ② 地域生活に移行した後は、就労機会の提供の場として、同園通所事業の利用により支援する。
- ③ 家族の意向も踏まえながら、緊急対応も含めた短期入所事業により、地域生活移行後のアフターケアを充実する。

※補足

当園は旧法の知的障害者授産施設から平成22年4月より自立支援法による新体系サービスへ移行し、障害者支援施設として「施設入所支援」、「短期入所」、「自立訓練(生活訓練)」、「就労移行支援」、「就労継続支援B型」のサービスを利用者へ提供している。

同園は新体系に移行したが、地域生活移行に関する提案は今後の障害者福祉のあるべき方向であり、今後も継続した取り組みを行うものである。

<実施状況>

- ① 施設入所者数 8名(平成22年3月末現在)
8名(平成22年9月末現在)
- ② 短期利用者数 229名(平成21年度下半期延人数)
316名(平成22年度上半期延人数)
- ③ 通所事業(就労移行支援・就労継続支援B型) 46名(平成22年3月末現在)
45名(平成22年9月末現在)

3 収支状況（単位：千円）注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しません。

	収 入 額			支出額	収支差額	
	指定管理料	利用料金 (前年同月料 金額)	その他収入			
年間予算額	202,196	27,565	118,514	56,117	202,196	0
上半期計 (a)	94,422	14,298	74,953 (71,726)	5,171	72,782	21,640
下半期計 (b)						
4月	16,320	2,635	12,916 (11,894)	769	6,135	10,185
5月	13,749	635	12,084 (10,899)	1,030	10,914	2,835
6月	22,802	9,123	12,866 (13,370)	813	23,047	△245
7月	12,219	635	10,889 (12,065)	695	12,204	15
8月	15,568	635	13,881 (11,524)	1,052	10,878	4,690
9月	13,764	635	12,317 (11,974)	812	9,605	4,159
合計 (a+b)	94,422	14,298	74,953 (71,726)	5,171	72,782	21,640

- 1 指定管理者の収入を記載する（県の収入である「使用料」は含まない）。
- 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見等

- ・半期計欄の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。
- ・また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
- ・年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

- ・4月は、支出の執行が多いことを見込んで、指定管理料を設定してあったが、見込みほどの支出がなかったため、収支差額が増となった。
- ・6月は、ボーナスの支払い等のため、収支差額がマイナスとなっている。

（今期に行った資本的な収入及び支出等の状況）

	内容	金額(千円)
収入の状況		
支出の状況		
積立等の状況		(期首)
		(期末)

- 収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。
 支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。
 積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

4 利用状況

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計 (a)	(夜間 48 / 日中 280) 328 人	312 人	5.1%
下半期計 (b)	人	人	%
4 月	(夜間 8 / 日中 47) 55 人	51 人	7.8%
5 月	(夜間 8 / 日中 47) 55 人	51 人	7.8%
6 月	(夜間 8 / 日中 47) 55 人	51 人	7.4%
7 月	(夜間 8 / 日中 47) 55 人	52 人	5.8%
8 月	(夜間 8 / 日中 47) 54 人	54 人	0.0%
9 月	(夜間 8 / 日中 47) 54 人	53 人	1.9%
合計 (a+b)	328 人	312 人	5.1%

利用状況に関する意見等

〔 半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。 〕

〔 前年比の増減率でマイナスはなく、増加率は10%以内となっている。 〕

5 苦情・要望等の状況

(施設受付分)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
4 月	3				3	6
5 月	4				5	9
6 月	4				0	4
7 月	5				1	6
8 月	2				4	6
9 月	2				7	9

(施設所管課受付分)

報告月	口頭	文書	合計
月			
月			
月			
月			
月			
月			

6 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

〔 類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。 〕

分野	概要	対応状況
施設・設備	・	
	・	
職員対応	・	
	・	
事業内容	・	
	・	
その他	・	
	・	

7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、県庁改革課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

発生日	概要・対応状況等
月 日	
月 日	
月 日	

8 随時モニタリングの実施状況

事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日	実施せず		
月 日			

9 上半期の所見等

1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。

指定管理 者	<p>指定管理施設として最終年となる。施設入所者の地域移行については、家族、関連機関等と調整を行い、順次円滑に進めている。</p> <p>平成 22 年 4 月より、障害者自立支援法における新事業体系へ移行。利用者にとってより効率的、効果的なサービスの提供が行えるよう事業の展開を進めている。</p>
施設所 管課	<p>平成 22 年 4 月より、障害者支援施設として、障害者自立支援法の新体系へ円滑に移行した。</p> <p>地域生活移行に関しては停滞しているが、徐々に関係機関との調整を進め、実績を残してもらいたい。</p> <p>短期入所については、平成 21 年度の下半期の実績を大きく上回っており、当法人の提案のとおり、利用者を積極的に受け入れている。</p> <p>地域生活を支える役割として今後も継続して取り組んでほしい。</p>